

国営讃岐まんのう公園管理運営プログラム



平成29年3月

国土交通省 四国地方整備局

 目次



1. 全体計画及び開園状況	1
1. 1. 全体計画	1
1. 2. 開園経緯	3
1. 3. 主な施設	3
1. 4. 利用の状況	4
1. 5. 公園のストック効果	5
(1) 讃岐地方の里山が有する自然環境を保全	5
(2) 広域からの観光客の集客・地域の活性化	5
(3) 健康増進への貢献・スポーツを通じた交流の場の提供	6
(4) 里山文化の体験と継承・多世代にわたる地域間交流	6
(5) 自然環境について楽しみながら学べる場	7
(6) 広域防災拠点としての機能	7
2. 平成 32 年度までの管理運営の方針等	8
2. 1. 平成 32 年度までの管理運営の重点事項	8
(1) 基本方針	8
(2) 管理運営の重点事項	8
2. 2. 管理運営方針	10
(1) 公園の魅力の向上	10
(2) 情報発信の強化	10
(3) 周辺地域等との連携強化	10
(4) 参加型による四国らしい里山の保全・再生	11
(5) 効率的な施設の維持管理	11
(6) 防災機能の強化	11
2. 3. 事業効果	12
(1) 自然・里山環境とのふれあいの場や多様なニーズに応じた魅力ある場の提供	12
(2) 地域活性化	12
(3) 地域固有の環境・文化の維持と保全	12
(4) 人材・組織の育成	13
(5) 災害時の迅速かつ円滑な対応	13



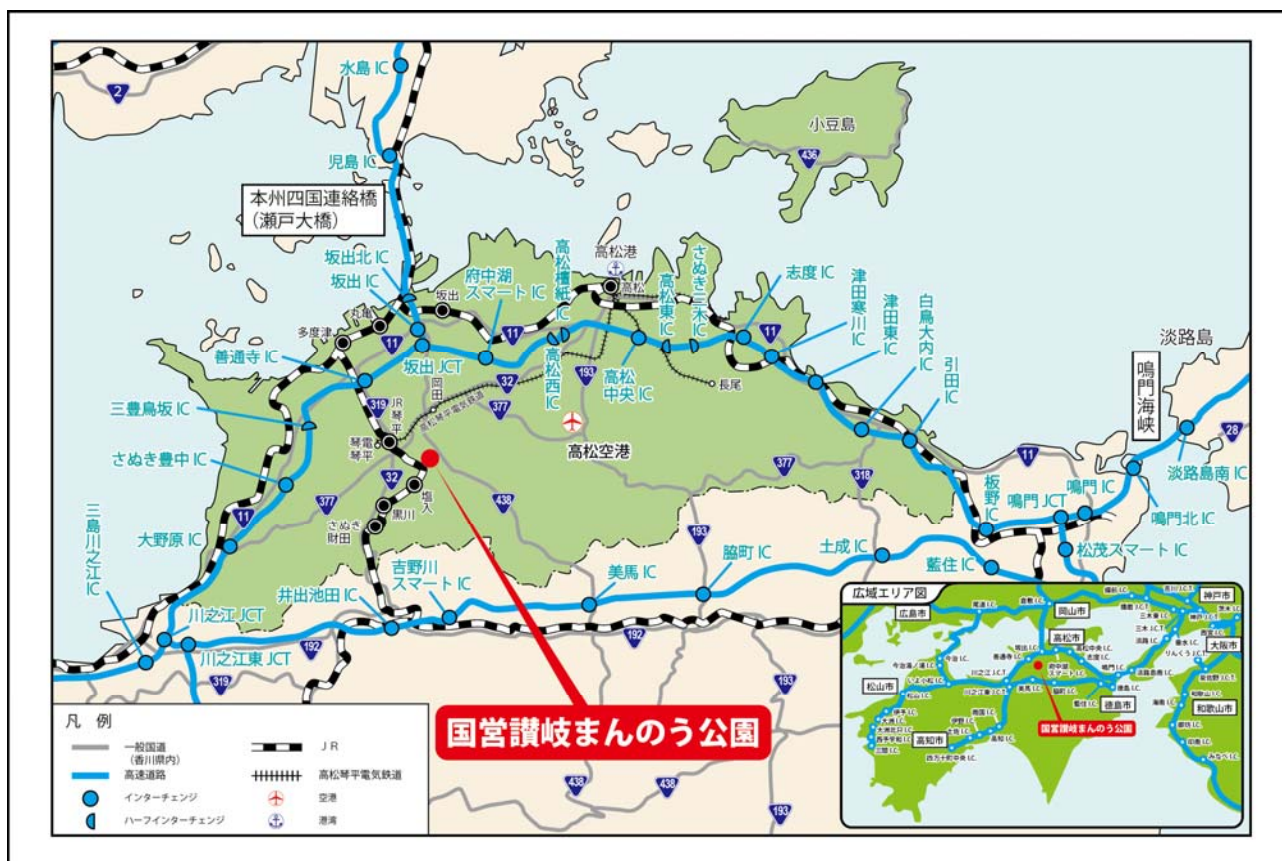
1. 全体計画及び開園状況

1. 1. 全体計画

□概要

国営讃岐まんのう公園は、香川県仲多度郡まんのう町に位置し、我が国最大級のため池である「満濃池」に接する、四国で唯一の国営公園です。

緑豊かな山並みと広々とした満濃池の水面を望むなだらかな丘陵地に位置する本公園は、空海が一つの偉業として後世に遺した満濃池とその周辺の豊かな自然、そして空海を生んだ四国の文化的土壌を活かし、基本テーマを「人間との語り、自然・宇宙とのふれあい」としています。



【公園の位置】

□全体計画面積：350ha

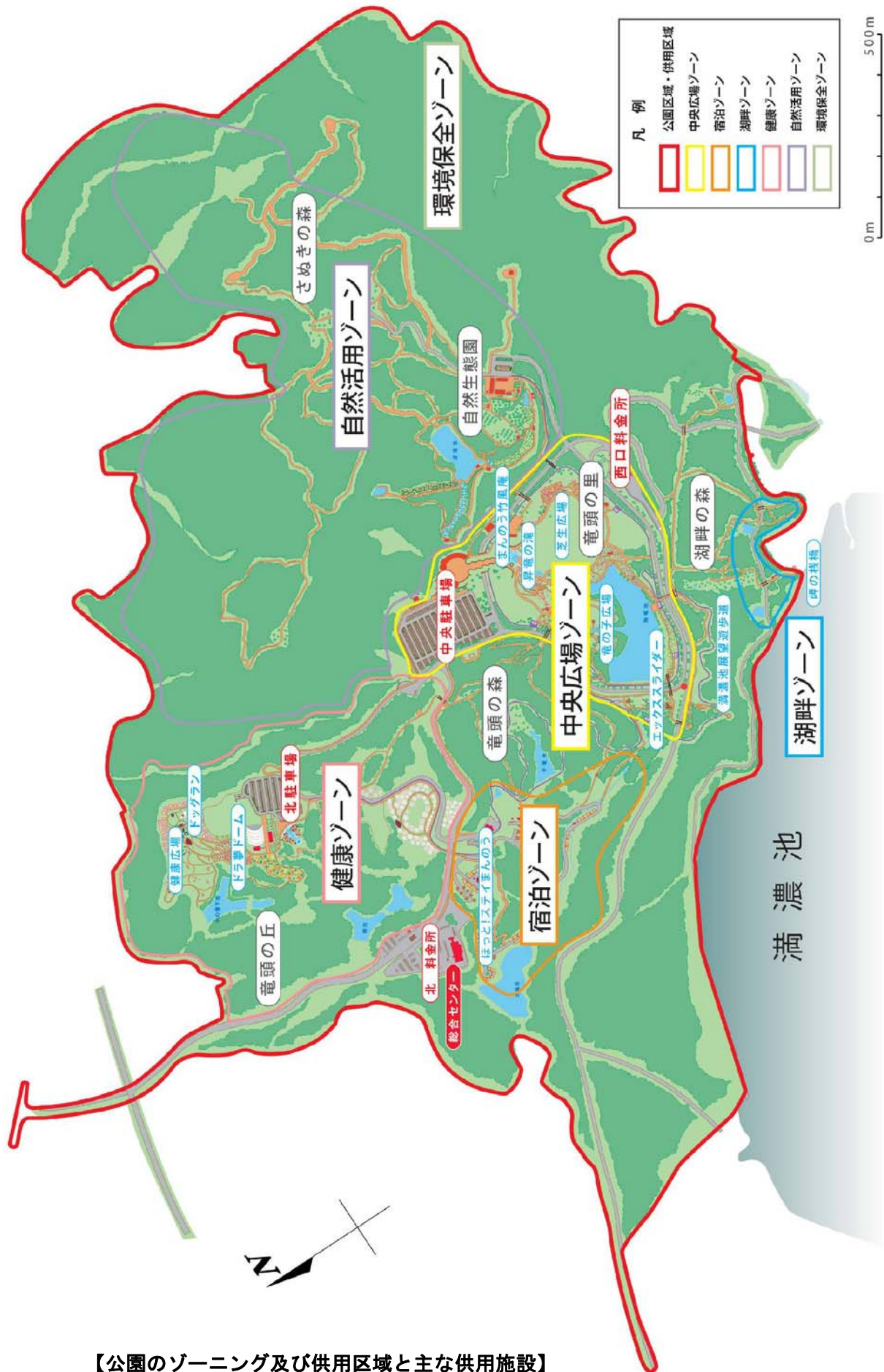
□種別：イ号国営公園

□事業採択年度：昭和 59 年度

□工事着手年度：昭和 62 年度

□供用開始年度：平成 10 年度

□供用面積：350ha[平成 25 年 4 月全面開園]



1. 2. 開園経緯

- 昭和 62 (1987) 年 10 月 : 工事着手
 平成 10 (1998) 年 4 月 : 中央広場ゾーン、宿泊ゾーン等の第一期開園 (供用面積約 80ha)
 平成 12 (2000) 年 4 月 : 北口園路・総合センターの追加開園 (供用面積約 96ha)
 平成 14 (2002) 年 4 月 : 自然生態園の追加開園 (供用面積約 111ha)
 平成 17 (2005) 年 3 月 : 湖畔ゾーンの満濃池展望遊歩道の追加開園 (供用面積約 112ha)
 平成 18 (2006) 年 12 月 : 湖畔通り線園路の追加開園 (供用面積約 114ha)
 平成 20 (2008) 年 3 月 : 湖畔の森開園で湖畔ゾーン一帯の追加開園 (供用面積約 154ha)
 平成 20 (2008) 年 4 月 : 健康ゾーンの全天候型多目的運動場 (ドラムドーム)・芝生広場の追加開園 (供用面積約 158ha)
 平成 23 (2011) 年 4 月 : 果樹園やドッグラン等の健康ゾーン一帯を追加開園 (供用面積約 198ha)
 平成 25 (2013) 年 4 月 : 「さぬきの森 (供用面積約 152ha)」が追加開園し、全面開園 (350ha)

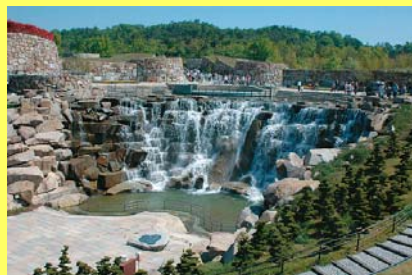
1. 3. 主な施設

【主な施設】

□中央広場ゾーン



芝生広場 : 周囲を山々に囲まれ、穏やかな讃岐の風土を表現しています。



昇竜の滝 : 石組みによる高さ 9m の滝は、滝を昇る竜をイメージしています。



まんのう竹風庵 : 「陶芸」が楽しめる工房と「お茶」を楽しめる茶室があります。



竜の子広場 : ふわふわドーム等の大型遊具や龍の祠 (ほこら) から流れ出る水と親しめるドラムドームの泉広場等、自由な遊び心と創造力を育む場があります。



エキススライダー : 最大落差 14m の滑り台がエクス型に交差する大型複合遊具です。

□健康ゾーン



ドラムドーム : 雨天・炎天時等にも利用できる全天候型多目的運動場です。



健康広場 : 自然の中に設置された健康器具で、筋力トレーニングやストレッチ等、自分にあった健康づくりを楽しめます。

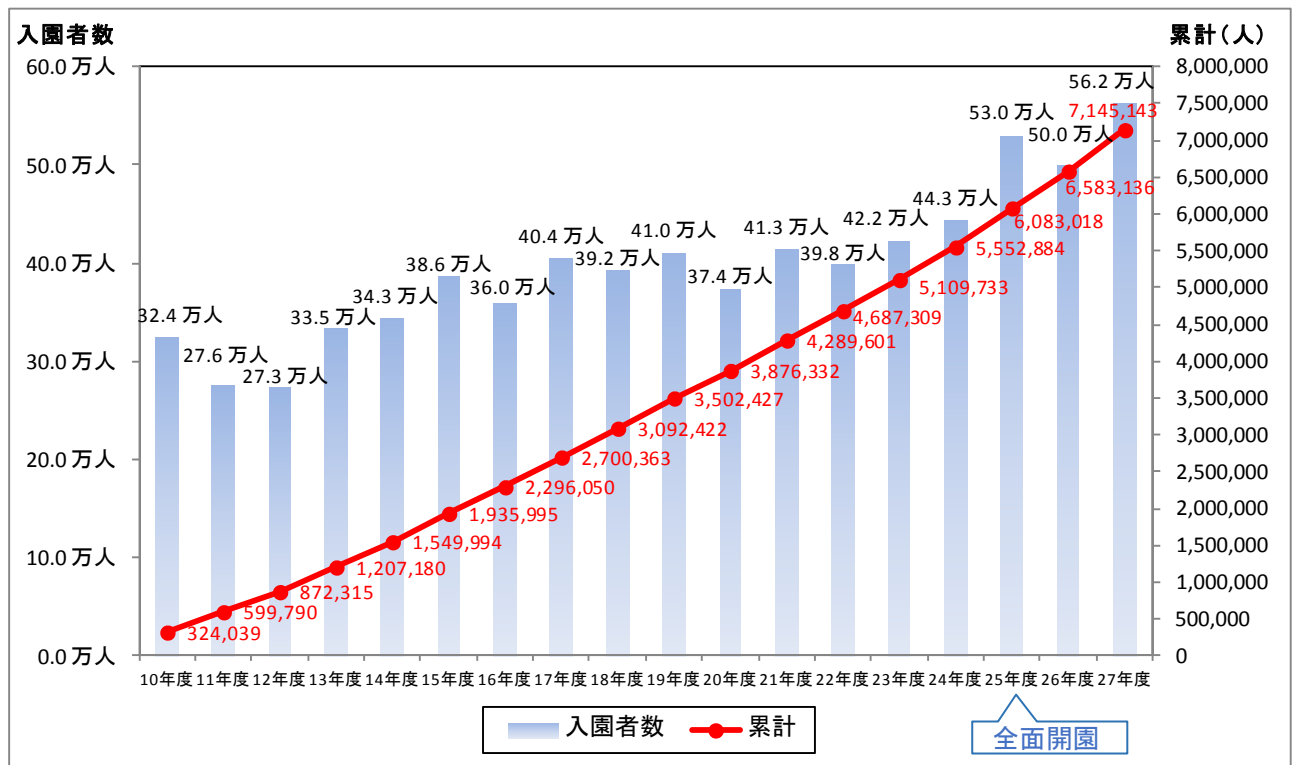


ドッグラン : リードなしで、愛犬たちが、のびのびと遊べるエリアがあります。

<p>□環境保全ゾーン</p>  <p>満濃池展望遊歩道：満濃池の景色を楽しみながら散策できる全長 400m の木製デッキです。</p>	 <p>竜頭の森：春にはオンツツジやヤマザクラが开花し、美しい新緑の中での散策が楽しめます。</p>	<p>□湖畔ゾーン</p>  <p>岬の棧橋：満濃池の景観が間近に堪能できる木製デッキです。</p>
<p>□自然活用ゾーン</p>  <p>自然生態園：讃岐地方の“ため池のある里山”環境を復元したフィールドミュージアムです。</p>	 <p>さぬきの森：讃岐地方の里山が持つ自然環境の保全と文化の伝承に取り組、その魅力を提供します。</p>	<p>□宿泊ゾーン</p>  <p>ホッとステイまんのう：最大 106 家族を収容できる四国最大級のオートキャンプ場です。</p>

1. 4. 利用の状況

開園から平成 27 年度までの入園者数の累計は約 7 1 5 万人であり、平成 27 年度には 5 6. 2 万人の方々に利用されています。



【年間利用者数の推移】

1. 5. 公園のストック効果

(1) 讃岐地方の里山が有する自然環境を保全

懐かしい古里の風景“ため池のある里山”を保全したフィールドミュージアムである「自然生態園」及び、“市民協働による讃岐らしい里山再生”をテーマとする「さぬきの森」において、田植えや間伐、植林等をボランティアとの協働により実施し、讃岐地方の里山が育ててきた自然環境の維持・再生・継承を図り、希少動植物の生息環境と里山固有の生態系保全に貢献しています。



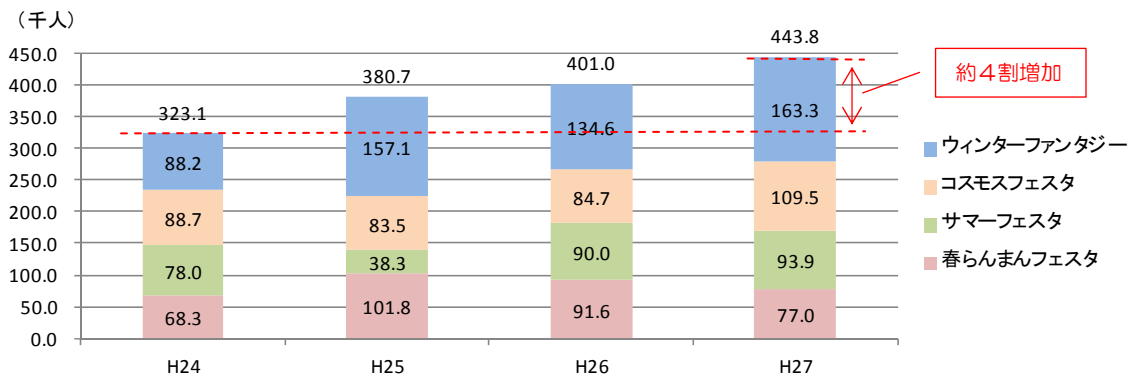
ボランティアとの協働による田植え体験

(2) 広域からの観光客の集客による地域の活性化

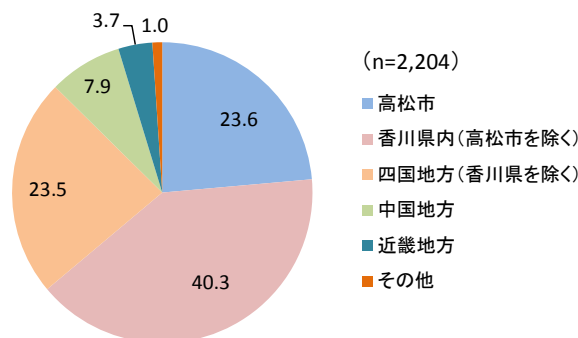
本公園の主要な行催事である四大イベントでは、特に冬季に開催する「ウィンターファンタジー」のイルミネーションを強化し、閑散期の利用促進を図ることで、年間を通じた地域活性化に貢献しています。また、「かがわ・山なみ芸術祭」や「モーターフェスティバル」等、新たな魅力あるイベントの誘致によって、県内外の広い範囲から入園者を集客し、地域の活性化・観光振興に貢献しています。



ウィンターファンタジーで賑わう園内



四大イベント開催時の入園者数推移
※四大イベントは入園者数全体の約80%を集客する



入園者の居住地比率 (H27 年度)

(3) 健康増進への貢献・スポーツを通じた交流の場の提供

「ドラ夢広場」や「多目的広場」、「ドラ夢ドーム」におけるサッカー教室等のスポーツイベントの実施や、「健康広場」での健康遊具による筋力トレーニング、ストレッチ等、多様な年齢層に応じた健康づくりに貢献しています。また、ウォーキングやリレーマラソン等のスポーツイベントを毎年開催し、地域住民のスポーツを通じた交流機会の提供と健康増進に貢献しています。



プロサッカーチーム指導による
サッカー教室の開催



マラソン大会の開催による地域交流
の促進と健康の増進



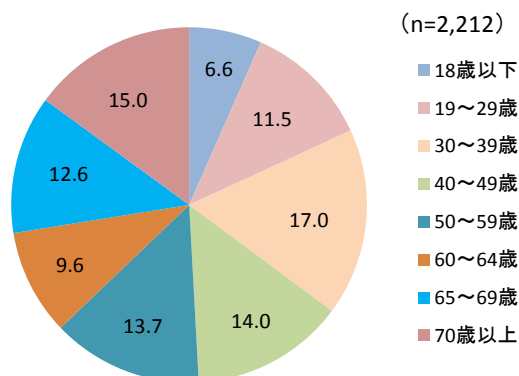
ウォーキングイベントによる
歴史探訪と健康増進

(4) 里山文化の体験と継承・多世代にわたる地域間交流

地域のボランティアの協力により、「炭焼き」や「竹細工」、「石うすでのきなこ餅づくり」等の里山に伝わる生活文化と暮らしを体験できます。様々な里山文化体験は、熟年層が多い地域のボランティアと広域から訪れる多様な世代との交流に貢献するとともに、里山で長く営まれてきた地域文化を広く継承していく場を担っています。



里山伝承体験教室での
文化学習と多世代交流



入園者の年齢比率 (H27 年度)

(5) 自然環境について楽しみながら学べる場

小学生等を主な対象に、公園の豊かな自然環境を活かし、自然環境をテーマとした「環境学習プログラム」等の多様な体験メニューを提供しています。参加者に、里山を歩きながら里山の生きものにふれあったり、野生動物になりきる「模擬体験」等の遊びの要素を持つ体験型学習を通じて、動植物の生態や生息環境等を学ぶ機会を提供し、身近な自然環境の保全意識を高める場としています。



里山の生きものにふれあう
ガイドウォーク



シイタケの菌打ち体験



野生動物になりきる「模擬体験」

(6) 広域防災拠点としての機能

本公園が南海トラフ地震の発生時において、後方支援を行う広域防災拠点として機能できるように、必要な施設と機能の検討を実施しました。その結果に基づき、災害時の備えとして、飲料貯水槽と防災トイレを設置し、「平成 28 年度四国地方非常通信訓練」実施時には被害報告や避難誘導等の訓練を行い、防災力の向上に貢献しています。



災害発生時の訓練実施



災害に備え地中に防災トイレの設置

2. 平成 32 年度までの管理運営の方針等

2. 1. 平成 32 年度までの管理運営の重点事項

(1) 基本方針

次の4つの基本方針のもとに、管理運営を総合的に実施しています。

- 1) 子供から大人まで四季を通じて多様なレクリエーション活動が行える公園
- 2) 計画地の特性や地域の文化、歴史、風土等を活かした四国らしい公園
- 3) 四国地域の人々の日帰り利用を主体とするが、滞在型の利用や四国を訪れる観光客の方々も利用できる公園
- 4) 公園の豊かな自然とのふれあいや様々なレクリエーション活動、イベントを通じて豊かな人間形成に役立つ公園

(2) 管理運営の重点事項

次の6つを重点事項として、管理運営を総合的に実施します。

- 1) 四国を満喫し、空海の故郷を体感する、自然と文化にふれられる公園

瀬戸内/讃岐の歴史・文化や風土、地形的特性、満濃池等の個性を活かし、四国らしい風景づくりによる魅力を創出し、本公園ならではの感動を提供します。



空海の故郷である讃岐の自然と文化を体感

- 2) 体と心をフル活用、遊びも学びも楽しめる公園

個性あるゾーン特性を活かして、若年層を始めとした多世代に、健康・スポーツや自然体験、文化体験等の多様なレクリエーション機会を提供します。



多くの人に楽しめる水辺

3) 四国中、日本中から、みんなが集まってくる公園

四国圏から中国・近畿圏にまで至る広域かつ多世代に利用される公園とし、さらには外国人にも利用される公園とします。



多くの人が集まる広場

4) 地域とともに育ち、地域とつながっていく公園

地域資源を生かした参加体験プログラムを実施するとともに、本公園を拠点とした公園周辺地域の回遊性を高める取り組みを推進します。

また、地域と協力し、地域の歴史、文化、自然等の情報を発信します。



地域の伝統芸能「獅子舞」の実施

5) 地域とともに、美しい花と豊かな緑、文化を守り楽しむ公園

地域との協働により、希少種保全や花修景等を育み、また、里山の自然と文化にふれあえる、讃岐固有の里山環境を再生します。



ボランティアによる花の手入れ

6) 効率的な運営管理と安全・安心な公園

アセットマネジメントによる効率的な運営管理等の推進や、自然災害発生時には広域防災拠点機能等を担う場とします。



アセットマネジメントによる園路デッキの補修

2. 2. 管理運営方針

以下の施策について重点的に取り組みます。

(1) 公園の魅力の向上

公園の大きな魅力の一つである花修景は、多くの人に見頃を体感していただけるよう、開花を見据えて植栽管理します。自然生態園やさぬきの森等では、近年高まりつつある体験学習への要望に応えるために、自然観察や樹林管理体験等の取組を強化します。また、新たなニーズに応じて、スポーツから文化芸術まで、多彩なイベントを積極的に取り入れます。更には、利用者の声に耳を傾け、従業員のホスピタリティ等に磨きをかけることで、本公園の魅力の向上を図ります。



花修景を楽しむ来園者

(2) 情報発信の強化

公園ホームページの定期的更新はもとより、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）等を積極的に活用し、より多くの人への周知を図ります。また、マスコミへの情報提供、チラシの配布等を通じて、花の見頃、イベント開催予定といった本公園に関する情報発信を強化し、様々な人に対する公園の周知に努めます。更には、ホームページ等の多言語化を図ることで、外国人観光客の誘致を図ります。



SNS等を活用した広報の展開

(3) 周辺地域等との連携強化

「まんのう町の日」等に代表される地元地域との協働イベントの継続や、相互の情報提供を実施することで、公園周辺の施設や団体との連携強化を図ります。また、近年新たに開催している芸術祭やモーターショー等、地域団体との協力によるイベントを積極的に実施することで、多様な主体との連携強化を図ります。



地域の行催事である「まんのう町の日」の開催

(4) 参加型による四国らしい里山の保全・再生

参加型の公園管理を推進し、さぬきの森や自然生態園では、ボランティアを主体とした、樹木の間伐や植樹等を実施することで、親しみのある里山環境の保全・再生に努めます。また、これらへの参加を通じて、里山の自然と文化を継承していく人材を育成します。

このほか、花の植栽等のボランティアの積極的な参加を通じて、みんなで育て、楽しむ参加型の公園づくりに努めます。



ボランティアの参加による樹林管理

(5) 効率的な施設の維持管理

利用状況や施設の重要度等の施設特性を踏まえて、損傷等が発生した後に対策を行う「事後的管理」と、日常点検、定期点検を踏まえながら施設の長寿命化を図る「予防保全的管理」を適切に使い分けることにより、施設の効率的な維持管理を実施します。また、バリアフリー対応や、多言語化のサイン設置等、利用される全ての人にやさしい公園を目指し、施設のユニバーサルデザインに配慮します。



遊具の定期点検の実施

(6) 防災機能の強化

南海トラフ地震等の災害発生時において、後方支援の拠点機能や代替機能を発揮するため、上位の防災計画を踏まえつつ、自衛隊等の関係省庁や自治体と協力しながら、広域防災拠点としての機能強化を図ります。また、利用者の一次避難地やまんのう町の一次避難地（予備）として、飲料水貯水槽を設ける等、災害時における防災機能の補充・補強を図ります。



災害に備えた飲料貯水槽

2. 3. 事業効果

(1) 自然・里山環境とのふれあいの場や多様なニーズに応じた魅力ある場の提供

本公園の主たる特徴となる豊かな自然の中で、散策、自然観察会や樹林の保全・再生を通じた体験プログラムの充実を図り、自然環境とふれあえる機会を提供します。また、社会の変化や利用者の新たなニーズに応じ、多様なイベントを実施することで、多くの利用者が楽しめる魅力のある場を提供します。



自然とふれあえるプログラムの実施



多彩なイベントの開催

(2) 地域活性化

周辺地域の団体や、多様な主体との協働によるイベントの開催により、公園から周辺地域、更には県内外の活性化に貢献します。



多様な主体との協働による身近なイベントや大規模イベントの開催

(3) 地域固有の環境・文化の維持と保全

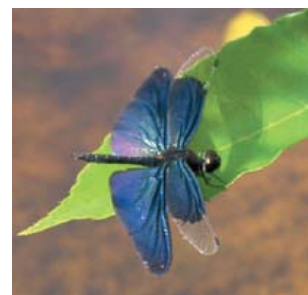
里山を形成する讃岐特有の貴重な動植物を保護することで、自然環境を守ります。また、これらを守る里山活動を通じて、讃岐ならではの里山文化の再生・継承に貢献します。



里山の保全（間伐）



（カスミサンショウウオ）



（チョウトンボ）

希少動植物の保護

(4) 人材・組織の育成

参加型の取組を推進することで、公園の維持管理や利用プログラム等を企画運営する人材・組織を育成します。



ボランティアによる樹林管理



ボランティアによる
プログラムの運営

(5) 災害時の迅速かつ円滑な対応

広域防災拠点としての必要な機能の強化や利用者の一次避難に向けたソフト面の充実を図り、災害時の迅速かつ円滑な対応が可能になります。



災害を想定した防災訓練による機能強化

なお、本プログラムは、社会情勢の変化等を踏まえ、随時見直しをしていく予定です。